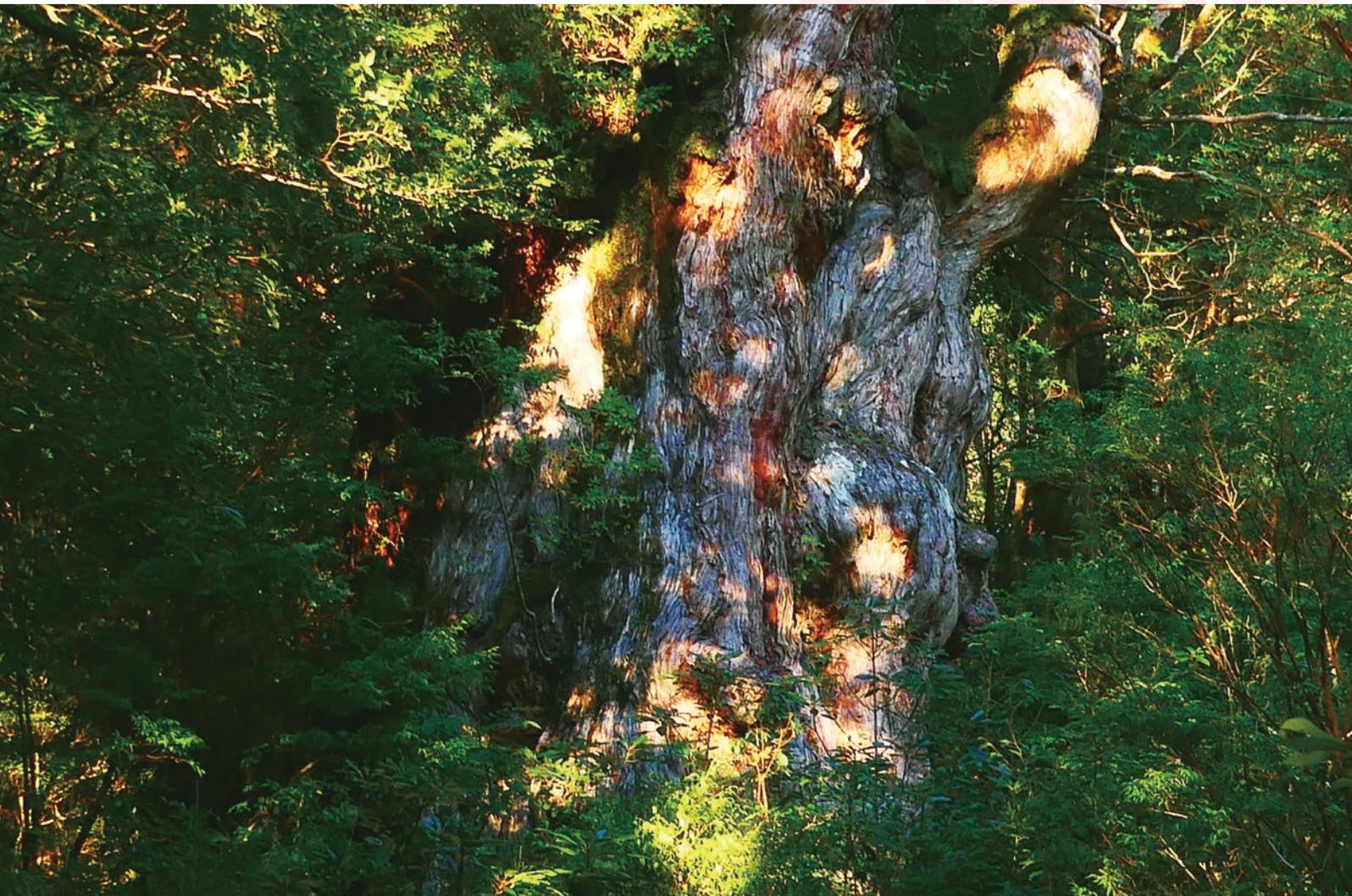


St.LUKE
THE 30TH ANNIVERSARY

St. Luke





開院30周年記念誌

St. Luke The 30th Anniversary



湯布院 朝霧と由布岳

聖句

もし、主が家を建てるのでなければ
それを建てる人々の労苦は空しい。

もし主が街を守るのでなければ
守る人々の労苦は空しい。

見よ、子どもたちは主から受け継いだもの。
胎の実りは報い。
子どもたちは勇士の手にある矢。

詩編127章より

病院沿革

1992年	5月28日	定礎式		2008年	11月8日	64th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine アメリカ生殖医学会 Third prize poster 受賞 「Clinical efficacy for IVF patients using a new evaluation with a measurement of oxygen consumption by scanning electrochemical microscopy」
	6月3日	診療開始				
	6月13日	腹腔鏡手術開始		2009年	1月18日	第6回 日本生殖医療心理カウンセリング学会・学術集会 優秀演題賞受賞 「治療継続のサポートのあり方 ～初診時から半年以内～」
	6月27日	開院披露			5月8日	第50回 日本哺乳動物卵子学会 学術奨励賞受賞 「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植 (eSET) への臨床的有用性」
	7月27日	体外受精開始			10月19日	新 Server 導入 (SarahBase)
	10月1日	顕微授精装置設置			10月19日	データバックアップシステム導入
	10月6日	体外受精妊娠成功		2010年	1月8日	河邊外来開始
1993年	2月1日	ミリQシステム導入			2月22日	腹腔鏡下筋腫核出術開始
	3月25日	GIFT 妊娠成功			5月30日	第51回 日本哺乳動物卵子学会 口演部門学術奨励賞受賞 「選択的単一胚移植 (e-SET) における day3 胚の呼吸量測定の試み」
	6月10日	体外受精出産			8月17日	医療法人セント・ルカ新病院建築起工式
	10月12日	顕微授精 (PZD) 妊娠成功			9月5日	島津 X 線テレビシステム導入工事
	10月22日	プログラムフリーザー設置			9月6日	島津 X 線テレビシステム稼働
1994年	7月1日	凍結胚移植妊娠成功		2011年	2月6日	第8回 日本生殖医療心理カウンセリング学会・学術集会 優秀演題賞受賞 「胚移植不能後の説明における 胚培養士の関わり方」
	9月24日	ICSI 妊娠成功			3月1日	新会計システム稼働
	12月1日				5月18日	SarahBase 検査依頼機能導入
	～10日	研究室改造			6月18日	医療法人セント・ルカ新病院竣工式
1995年	1月1日	医療法人認定			7月1日	セント・ルカ産婦人科新病院開院
	10月6日				7月1日	受付予約システム稼働
	～12日	研究室改造		2012年	3月17日	卵巣に関する国際カンファレンス2012 Poster Award 受賞 「DNA methylation errors at imprinted loci after ART conception originate in the parental sperm」
	11月9日	RESA-ICSI 妊娠成功			11月14日	3D モニター・3D カメラ導入
1996年	3月7日	妊娠成功 1000 例		2013年	2月26日	Server 入れ替え (SarahBase)
	6月1日	病院専用駐車場開設			4月10日	タイムラプスシステム導入
1997年	6月21日	情報処理室開設			8月8日	第31回 日本受精着床学会総会・学術講演会 会長
	8月23日	セント・ルカ産婦人科開院5周年記念祝賀会			11月13日	The 9th of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility Poster Award 受賞 「DNA Methylation Errors at imprinted loci after Assisted Reproductive Technologies (ART) Conception Originate in the Parental Sperm」
	10月2日	ホームページ開設			3月26日	ドライインキュベーター導入
1998年	4月27日	セント・ルカ生殖医療研究所起工式			5月17日	第55回 日本卵子学会学術集会 学術奨励賞受賞 「ヒト初期胚における多核の原因検討」
	10月12日	セント・ルカ生殖医療研究所竣工式			8月1日	第32回 日本受精着床学会総会・学術講演会 世界体外受精会議記念賞受賞 「タイムラプス (Primo Vision) 観察と胚呼吸量測定を用いた初期胚品質評価の可能性」
1999年	5月29日	SarahBase 販売開始		2014年	9月9日	おおいた乳がん生殖医療ネットワーク発足
	7月26日	(有)メディテック・ルカ発足			10月27日	卵管鏡導入
	10月7日	Vitrification 妊娠成功		2015年	3月23日	ホームページリニューアル
2000年	6月30日	カウンセリング講座開講 (1 回/月)			11月8日	JISART 施設認定審査
	11月30日	セント・ルカ生殖医療研究所動物舎完成				
2001年	7月11日	待合室・受付改装工事着手				
	10月9日	新受付・待合室完成				
2002年	4月18日	新 SarahBase 再構築着手				
2003年	6月	新 SarahBase 稼働				
	6月	会計システム導入				
	10月3日	第21回 日本受精着床学会総会・学術講演会 世界体外受精会議記念賞受賞 「ストローを用いた安全な前核期胚 vitrification の臨床応用」				
2004年	5月15日	第45回 日本哺乳動物卵子学会 学術奨励賞受賞 「体外受精における非受精卵の前核形成 阻害の解析」				
2005年	4月1日	JISART・RTAC 認定				
	8月2日	自家発電機 (停電時非常用) 設置				
	8月15日	ISO9001 認証取得				
2006年	3月26日	第3回 日本生殖医療心理カウンセリング学会・学術集会 優秀ポスター賞受賞 「40 歳以上の不妊症患者を対象とした サポート・グループの取組み」				
	7月	新会計システム再構築着手				
	7月4日	ISO9001 外部審査				
	7月10日	胚呼吸量測定の臨床応用開始				
	8月3日	胚呼吸量測定後の胚移植による妊娠成功				
2007年	2月22日	新会計システム稼働				
	4月21日	吸収式冷温水器取替工事				
	7月24日	ISO9001 外部審査				
2008年	4月2日	JISART 施設認定審査				
	6月2日	新カルテ庫工事着手				
	6月20日	新カルテ庫完成				
	7月22日	ISO9001 外部審査				



- 2016年** 8月25日 Server 入れ替え(会計システム)
8月26日 レセプトコンピューター入れ替え
9月12日 ホルモン測定装置入れ替え
- 2017年** 3月21日 レントゲンシステムバージョンアップ
4月3日 体温表システム導入
7月1日 AIACL1200ST 導入
7月1日 アクセスII 導入
7月20日 第35回日本受精着床学会総会・学術講演会
世界体外受精会議記念賞(臨床)受賞
「ヒト胚盤胞の栄養外胚葉と内細胞塊の
染色体構成についての検討」
9月3日 第16回生殖バイオロジー東京シンポジウム
学術奨励賞受賞
「マウスを用いたシクロフォスファミド(CPA)
投与回数による妊孕能回復への影響」
- 2018年** 2月25日 第15回日本生殖心理学会・学術集会
優秀演題賞受賞
「大学生と初診患者における生殖知識と
健康意識についての比較と不妊講義の学
習効果」
11月11日 JISART 施設認定審査
12月14日 第23回日本生殖内分泌学会学術集会(福岡)
学術奨励賞受賞
「子宮内膜間質細胞の脱落膜化における
Epidermal Growth Factor Receptor
を介した細胞機能調節」
- 2019年** 4月16日 3D手術装置一式入れ替え
9月8日 第18回生殖バイオロジー東京シンポジウム
学術奨励賞受賞
「子宮内膜間質細胞の脱落膜化における
Epidermal Growth Factor Receptor
を介した細胞機能調節」
- 2020年** 4月23日 液体窒素タンク監視システム工事
2021年 10月10日 JISART 施設認定オンライン審査
クロージング会議

病院概要

名 称 医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

開設年月日 1992年6月3日

住 所 〒870-0823
大分県大分市東大道1丁目4番5号
TEL 097-547-1234
FAX 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
http://www.st-luke.jp/

許可病床数 13床

職 員 数 総数 44名

常勤医	4名	総務部	2名
公認心理師	2名	受付	7名
研究室・培養室	8名	情報処理室	2名
看護師	12名	調理士	2名
准看護師	5名	栄養士	1名

診 療 時 間 (受付予約制)

月・水・金： 8：30～11：30
13：30～15：30
17：00～18：30
火・土： 8：30～11：30 (祝日を除く)

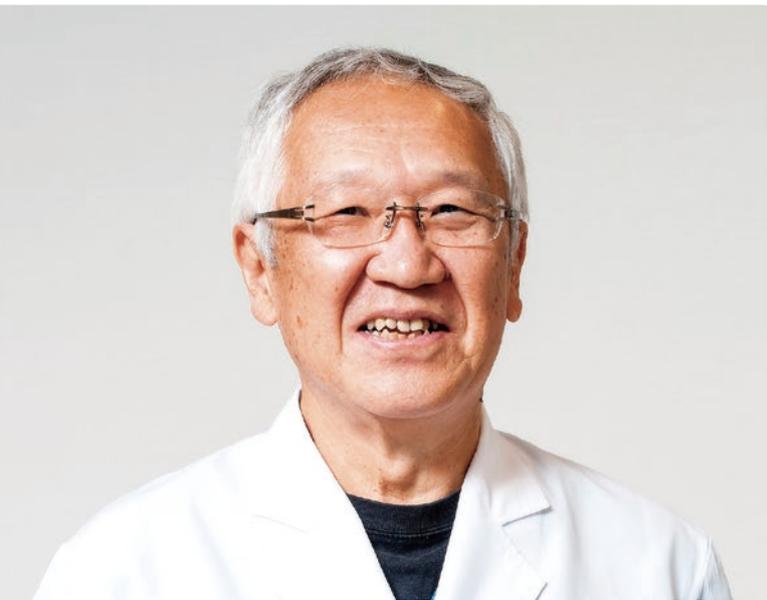




グランドキャニオンの虹

CONTENTS

病院沿革・病院概要	2
巻頭言	6
セント・ルカ産婦人科30周年によせて	9
開院30周年を迎えて	21
主催講演会	35
資料編Ⅰ	63
開院から2021年までの成績	
当院の患者数・妊娠に至った主たる有効治療	64
妊娠の転帰・出産結果	65
外来患者数・初診患者数	66
手術・入院数	67
妊娠数	68
ART(生殖補助医療)による妊娠 ほか	69
不妊治療費助成金申請内訳	70
初診後妊娠までの期間 ほか	71
IUI(選別精子子宮内注入法)による妊娠 ほか	72
ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT) による妊娠 ほか	73
資料編Ⅱ	75
スタッフ配置・有資格者	76
研究室・培養室のあゆみ	77
資料編Ⅲ	79
セント・ルカ産婦人科30年のあゆみ	80
学会・講演会等参加・発表一覧	81
受賞一覧	98
行事一覧	100
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	107
院内講座・教室・サークル等 活動一覧	110
論文一覧	115
著書(共著)・翻訳一覧	119
新聞記事より	123
写真で振り返るセント・ルカの30年	131
私の半世紀と感謝	151



院長 宇津宮 隆史

この数年間で歴史に残る劇的な出来事が起こった。新型武漢コロナウイルス感染とロシアのウクライナ侵略である。中国・武漢から発生した新型コロナは、初期コントロールすべき時期に中国と国連、WHOの隠ぺい工作によって世界中に広がった。ロシアのウクライナ侵略はプーチンの身勝手な考えに押し切られた結果である。「強い者が勝ち」「正義などくそくらえ」の世の中となった。しかし私はそれらには伏線となるべき現象があったと考えている。それは、欧米中心の世界の規制解除・新自由主義、グローバリズムとIT産業の自分勝手な拡大が可能で世の中であり、日本でも小泉・竹中ラインが自己の利益誘導のためにそれを導入した結果である。規制解除により国内産業はズタズタにされ、外国資本が容易に侵入し、非正規雇用が半分になり、格差が拡大した。また確かに一面、インターネットは便利で有能であるが、しかし、その後発生したリスクを考えると、いかにこのIT産業が発生、拡大してゆく過程で、各国の政府がその危険性、脆弱性に危機感を持たず、やらせ放題にしてきた結果であることがわかる。こんな危険なツールを、やりたい放題、野放しで認めてしまったのが今がある。他の産業と比較すれば、例えば電波は政府が強い権限でコントロールしており、勝手に電波を使用することはできない。交通網

でも一つ一つ国土交通省の許可のもとに運営され、バス停を1m動かすにも本省の許可があると聞くほどコントロールされている。しかもそれらの背景はちゃんと評価され、それに従って得られた利益に対して一定の税がかかっている。医療においては過酷と言えるほどの安全性、有効性、経済性が求められている。しかし、IT産業に対しては政府のそれらへのコントロール、指導意識、さらに国民に対する責任感が希薄である。それをうまく利用してIT産業が隆盛を誇っていられるのはその背景、環境がすでに蓄えられた先人の知恵と環境整備が出来上がっているおかげであることは自明である。まず、各国政府はこれらの点を鑑み、まずそれが実際に使用される際のリスク予想を行い、厳しく指導、コントロール、認可制度を構築すること、さらにそれで得られた利益に対してはそれ相応の税をかけること、さらに税金逃れのタックス・ヘイブンを逃れることができない方策を作ること、などであろう。GAFAMの収益は一般先進国の国家予算の平均をすでに大きく上回っている。であるからこのようなコントロールは今更可能なわけがない。そろそろITからメタバース環境に発展(?)移行するが、これはさらに複雑、困難なリスクを伴いそうで、これへの対策は途方もないほど大がかりと予測され、特に我々医療界ではさらなる強力な医学的、心理的対策が求められてくるであろう。「強い者は何をしてもよい、弱い者はそれに従うべき」。このような世界の流れがあるからコロナやウクライナが発生したと考える。今や世界は権威専制国家の数は民主主義国家よりも多い。それでよいのか。人類が何世紀にもわたってはぐくみ、構築してきた知恵と方策があったはずであるが、ここでまた振出しに戻る、いや、それ以上に退歩した時点で後退する愚を犯しているように感じる。

翻って、我々医療界、中でもこの狭い生殖医療においても、やりたい放題、強いもの勝ち、利益第一、プロパガンダ（宣伝）第一、ガイドライン無視、EBMなど関係ない、などの風潮が見えるようになった。生殖医療はまず、産科、および婦人科をきちんと履修、経験できて産婦人科患者の気持ちを理解できていなければならない。それが基礎になる。初めてIVFで見た受精卵の輝き、そしてそれがきれいな赤ちゃんとして目の前に現れた感激に根差したはずの生殖医療はどうなったのか。患者のためではなかったのか。日本の体外受精は世界一採卵回数が多く、世界一妊娠率が低い。この大きな原因はすでに指摘されているように、全胚凍結が多い。きちんとした卵巣調節刺激法・胚移植を行わないからである。多くの論文が示すように、妊娠効率の良い採卵時卵胞数は10 - 15個である。我々は本当に子どもが欲しいと思い、願っている患者のために、採卵回数の少ない、安全な、効率の良い、1日も早く子どもが得られるような治療をするべきである。

生殖医療は患者のためでもあるが、それ以上に生まれてくる子どものためにあるべきと思う。それを心にとめておけば、生殖医療に関する様々な倫理的、社会的懸案もおのずと解決するはずである。出生前診断、着床前診断、LGBT、非配偶者間生殖医療、養子縁組、そして今現在でも取りざたされているいわゆる「先進医療」など様々な複雑な懸案が関与する生殖医療領域である。これらを考えるとき、まず、生まれてくる子どもの立場を第一に考えればすべて解決する。その生まれてくる子どもに一番近い立場にいるのは我々生殖医療従事者である。自然に子どものできた人たち（国民の大部分）には不妊症の気持ちはわからない。よって、生殖医療で効率の良い、妊娠率の高い医療を行おうとすれば、「命の選別」「神の領域」などと反対する。そうではなく、単に元気

の良い子が欲しいだけである。われわれはその患者に最も近い位置にいる。産婦人科医がその患者の側に立たねばその患者はどうすればよいのか。その患者を守るのはわれわれである。われわれはその責任をもって、確信をもって、自信をもって各方面に働きかけねばならない。G・オーウェルは「知っている人は口を閉ざすのではなく、積極的に発言する責任がある」と指摘している。

別府平和園は今、35名前後の子供たちが元気に暮らしている。そして新しい園長、事務長を迎えて1年半になる。どちらも県の関係におられた方々で、平和園の弱点であった公的立場からの視点での現状把握、将来構想などに新しい風を吹き込んでくれている。ただ、将来計画においては、国の福祉関連構想との兼ね合いもあり、具体的な検討がなされがたい状況である。特に大分県は特別養子縁組を目指した里親制度が盛んであり、それに伴って養護施設の在り方とのすみわけがどうなるのか考えねばならない。これに関しては、参議院議員 衛藤晟一氏よれば、過去の元厚労大臣の発言は勇み足で、国も施設養護の重要性は理解しているとのことである。よって、最新の情報を仕入れ、平和園の建物も35年以上経つため、改築も視野に入れながら、平和園の特徴のある福祉事業を模索しなければならない時期に入っている。それには現職員、特に保育士、指導員自らが、自身の将来の夢、理想とする平和園の在り方などの具体的な意見を交わし、構想を積み上げてゆくことで形が見えてくるであろう。いくら里親制度が機能しても施設養護は必要とされる。そのような環境で、本当に安心して子どもたちが暮らせる住まいとしての平和園の将来を目指したい。今後も別府平和園へのご支援よろしく願いいたします。

2022年10月31日（ルター・95か条提題の日）